

# 悠久の時を超えた古代出雲を巡ってみましょう

# 古代出雲 神々への祈り



出雲大社

特集記事 第2回歴史文化賞受賞作決定記念シンポジウム

神迎神事

## よみがえる古代出雲 島根県立古代出雲歴史博物館

- 概要:出雲大社の東隣に位置している博物館で、平安時代48mの高さを誇ったといい伝えられる古代出雲大社高層神殿模型(1/10スケール)や全国唯一その全容が今に伝わる出雲国風土記の再現、日本最多出土の荒神谷遺跡、加茂岩倉遺跡の青銅器群などを展示しています。
- 場所:出雲市大社町杵築東99-4 電話:0853-53-8600
- 開館時間:9:00~18:00(11月~2月 9:00~17:00)
- 休館日:第3火曜(祝日の場合は翌日) 入館料:一般610円
- アクセス:(電車)一畑電車「出雲大社前駅」降車、徒歩約10分  
(バス)JR出雲市駅より一畠バス「出雲大社・日御碕」行きバス「正門前」バス停降車、徒歩約2分



## 青銅器大量出土の大発見 荒神谷博物館

- 概要:昭和59年、当時の国内出土数を上回る358本の銅劍が出土。さらに翌年銅鐸6個、銅矛16本が同時に出土し、古代史に大きな波紋を投げかけた荒神谷遺跡(銅劍・銅鐸・銅矛とともに国宝に指定)。博物館では、荒神谷遺跡の发掘ドキュメントを放映し、ショップでは古代出雲に関した本やレアグッズが豊富に揃っています。
- 場所:出雲市斐川町神庭873番地8 電話:0853-72-9044
- 開館時間:9:00~17:00 休館日:火曜(祝日の場合は翌日)、年末年始
- 入館料:無料(展示室一般205円 ※特別展はその都度定めます。)
- アクセス:JR山陰本線荘原駅から車で5分、出雲空港から車で15分



## 弥生時代の全国最大級の王墓 出雲弥生の森博物館

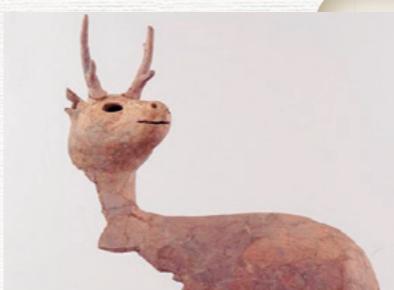
- 概要:邪馬台国の卑弥呼が生きた弥生時代、出雲には全国最大級の王墓である四隅突出型墳丘墓が築かれました。博物館は王墓が集まる「西谷塙墓群」に隣接しており、ガラスの勾玉や腕輪、鮮やかな朱の副葬品、そして出雲の王の模型や葬儀の様子を大胆に復元した巨大オラマが、見る人を弥生時代へ、出雲王の世界へと誘います。
- 場所:出雲市大津町2760番地 電話:0853-25-1841
- 開館時間:9:00~17:00 休館日:火曜(祝日の場合は翌日)、年末年始
- 入館料:無料(企画展・特別展はその都度定めます)
- アクセス:(電車)一畠電車「大津町駅」下車、徒歩約20分  
(バス)JR出雲市駅より三刀屋出雲線「三刀屋行」バス「出雲弥生の森博物館前」バス停降車



(写真提供／出雲市)

## 古代出雲の国造りの中心地 島根県立八雲立つ風土記の丘

- 概要:八雲立つ風土記の丘周辺は、縄文時代、弥生時代の遺跡や数多くの古墳、出雲国造家にゆかりのある神社や寺などがあり文化財の一宝庫です。展示学習館には、風土記の丘地内出土の遺物をはじめ出雲国風土記の写本、県内の古代史をかたる多くの資料が展示しており、地内には「額田部臣」の銘文入り大刀が出土した岡田山1号墳や風土記植物園もあります。
- 場所:松江市大庭町456 電話:0852-23-2485
- 開館時間:9:00~17:00 休館日:火曜(祝日の場合は翌日)、年末年始、企画展の前後
- 入館料:一般200円(企画展期間中は300円)
- アクセス:(バス)JR松江駅より一畠バス「八雲」行きバス「風土記の丘入口」バス停降車



島根県教育庁文化財課  
TEL:0852-22-6725

〒690-8502 島根県松江市殿町1番地  
HP:<http://www.pref.shimane.lg.jp/bunkazai/>

# 国家、誕生の謎

平成27年2月8日(日) 13時~16時  
くにびきメッセ3F 国際会議場

島根など5県共同で古代歴史文化に関する優れた書籍を表彰する第2回古代歴史文化賞の受賞作決定記念シンポジウムが2月8日、松江市のくにびきメッセで開かれた。

同賞は島根、奈良、三重、宮崎の4県が連携して2013年に創設し、2014年より和歌山県が参加。シンポジウムでは著書「飛鳥の木簡―古代史の新たな解明」で大賞を受賞した大阪大学院の市大樹准教授が「木簡からみる文化交流」と題して記念講演。奈良大の寺崎保広教授、国立歴史民俗博物館の松木武彦教授、東海大の北條芳隆教授、淑徳大の森田喜久男教授が「巨大古墳から平城京へ。そのとき出雲は?」のテーマで討議し、県内外から訪れた古代史ファン510人が聞き入った。

一本目の主題は「国家、誕生の謎」という壮大なテーマ。卑弥呼、通認識は得られた。前方後円墳の成り立ちについて説明

寺崎 701年の大宝律令で完成する日本の律令制は天武・持統朝(672~690年)で準備され、法に基づく公文書で行政を進めた。租税制度、官僚機関などを国家要件とする、全て満たす7~8世紀の律令国家は確実な国家と言える。ただそれ以前の3~4世紀、5~6世紀の段階をどう捉えるかは研究者によって意見が分かれるところだ。

一広い範囲がまとまる最初の段階は邪馬台国といえるだろう。中国の史書による邪馬台と、全般の議論で邪馬台国は大和、箸墓は卑弥呼の墓との共通認識は得られた。前方後円墳の成り立ちについて説明

松木 全国で同じような規格、形の墓をつくり、サイズで身分秩序を表わす。正真正銘古墳時代の始まりであり、大和政権の確立であると理解するのが一般的。

北條 巨大な前方後円墳を何百年も作り続けることに以前から疑問を抱いていた。家康は日光東照宮に祀られ神格化され、2代以後は崇めていくことで政治を安定させた。前方後円墳は神格化には失敗しておらず、経済効果など作り続ける目的は別のところにあつたのではないか。

一森田さん、文献史の立場から日本海ルートについて見解を。

森田 「日本書紀」に神功皇后が福井県の角鹿を発ち、渟田門を経由して山口へ向かうの記述がある。夫の仲哀天皇は瀬戸内ルートを使うが、神功皇后は日本海ルート。伝承が事実か分からぬが、ルートが存在しなければ伝承も生まれない。神功皇后に卑弥呼の姿が仮託されていると考えてもいいのでは。

森田 神宮皇后はなぜか日本海を通る。日本書紀では卑弥呼に触れない。神功皇后に卑弥呼の姿意識していたことは間違いない。古事記、日本書紀には一

国の評価を森田さんから説明いただきたい。

森田 中国の史書で倭人について初めて書かれた『漢書』地理志(紀元前1世紀頃)では「樂浪の海を越えた所に百余国に分かれた倭人の國」と記し、「國」として映っている。4世紀の『後漢書・東夷伝』には「建武中元二年(57年)、倭奴國の王は後漢の都の洛陽にまで使者を派遣し、朝貢していた。

「安帝の永初元年(107年)、倭國王の帥升等が」と、百余国から倭奴國へそして倭國へとある程度大きくなるまつた印象。ただ「等」と複数になつており、統一的な國ではないと思われる。邪馬台國が分かれる。

北條 邪馬台國については北九州勢力をバックとし、吉備勢力と対立する大和説をとる。道筋などから考えると、大和説をとる以上は、投馬國(出雲)と云ふと考へるのが自然だろう。

松木 投馬を「つま」と読み、大和から見えて太陽が沈む方角を指す「ゆうつま」を「いつもの地名の由来」とし、投馬國(出雲説)を推したい。

一投馬國(出雲説)との指摘。吉備説が大勢だと思うが。

北條 邪馬台國に吉備が大和の邪馬台國連合に参加してたら、經向遺跡(奈良県櫻井市)などに吉備のものがもつとも入つていて。卑弥呼は狗奴国との戦いに敗れ、2

一吉備に橋築墳丘、出雲に四隅突出墓の西谷3号墓、弥生時代の大墓墳が存在。吉備で発生した特殊器台が両遺跡から出土するなど間違なく交流があつたはず。対立関係だったのか。

北條 卑弥呼存命中に吉備が大和の邪馬台國連合に参加してたら、經向遺跡(奈良県櫻井市)などに吉備のものがもつとも入つていて。卑弥呼は吉備の王とともに倭國を名乗つたのでは。これ

は一切ない。邪馬台国までの道筋として「水行すること十日、陸行すること一月なり」とあり、吉備であれば陸行一月もかからず、地理的必然性からしても出雲説をとりたい。

一3人とも投馬國(出雲説)では邪馬台國と対立する狗奴國の所在地はどこか。定説は東海地方、尾張だ。

北條 私は吉備説。卑弥呼は魏に使者を送り、皇帝から「親魏倭王」に任じられた。朝貢の是否を巡る対立関係として邪馬台國連合(畿内・出雲・北九州)・反対意見側の狗奴國連合(瀬戸内と南九州・沖縄)の構図があつたとするのが自然な見方だと思う。

一吉備をまとめたのは世俗王、神聖王2つの権力が必要。世俗王が橋築、神聖王が西谷との解釈も可能では。

北條 桥築、西谷とともに中國から輸入した真っ赤な水銀朱が出士し、連携していた可能性はある。邪馬台國以外で王が存在したのは「男子を王と為す」とある狗奴國。帥升がいたのは狗奴國である吉備とみるべきだ。

一出雲の王は吉備の王とともに倭國を名乗つたのでは。これ

47年か248年頃死去。吉備の影響が顕在化していくのは卑弥呼の死後、箸墓古墳(纏向遺跡内・3世紀中頃)以降だ。狗奴國が男性王を立て混乱。台との共立で邪馬台国、狗奴國の対立が和解・再統一される展開を考えてはどうか。

一國をまとめたのは世俗王、神聖王2つの権力が必要。世俗王が橋築、神聖王が西谷との解釈も可能では。

北條 北條説は面白いが納得できない。狗奴國は邪馬台國の東方となり、東海地方だろう。橋築、西谷は箸墓より100年位遡ると思う。遅くとも紀元150年前後、卑弥呼の墓と推定される箸墓との類似点などから、橋築が倭國王帥升の墓である可能性もある。

一吉備をまとめたのは世俗王、神聖王2つの権力が必要。世俗王が橋築、神聖王が西谷との解釈も可能では。

北條 桥築、西谷とともに中國から出土するなど間違なく交流があつたはず。対立関係だったのか。

北條 卑弥呼存命中に吉備が大和の邪馬台國連合に参加してたら、經向遺跡(奈良県櫻井市)などに吉備のものがもつとも入つていて。卑弥呼は吉備の王とともに倭國を名乗つたのでは。これ

は一切ない。邪馬台国までの道筋として「水行すること十日、陸行すること一月なり」とあり、吉備であれば陸行一月もかからず、地理的必然性からしても出雲説をとりたい。

一3人とも投馬國(出雲説)では邪馬台國と対立する狗奴國の所在地はどこか。定説は東海地方、尾張だ。

北條 私は吉備説。卑弥呼は魏に使者を送り、皇帝から「親魏倭王」に任じられた。朝貢の是否を巡る対立関係として邪馬台國連合(畿内・出雲・北九州)・反対意見側の狗奴國連合(瀬戸内と南九州・沖縄)の構図があつたとするのが自然な見方だと思う。

一吉備をまとめたのは世俗王、神聖王2つの権力が必要。世俗王が橋築、神聖王が西谷との解釈も可能では。

北條 桥築、西谷とともに中國から出土するなど間違なく交流があつたはず。対立関係だったのか。

北條 卑弥呼存命中に吉備が大和の邪馬台國連合に参加してたら、經向遺跡(奈良県櫻井市)などに吉備のものがもつとも入つていて。卑弥呼は吉備の王とともに倭國を名乗つたのでは。これ

は一切ない。邪馬台国までの道筋として「水行すること十日、陸行すること一月なり」とあり、吉備であれば陸行一月もかからず、地理的必然性からしても出雲説をとりたい。

一3人とも投馬國(出雲説)では邪馬台國と対立する狗奴國の所在地はどこか。定説は東海地方、尾張だ。

北條 私は吉備説。卑弥呼は魏に使者を送り、皇帝から「親魏倭王」に任じられた。朝貢の是否を巡る対立関係として邪馬台國連合(畿内・出雲・北九州)・反対意見側の狗奴國連合(瀬戸内と南九州・沖縄)の構図があつたとするのが自然な見方だと思う。

一吉備をまとめたのは世俗王、神聖王2つの権力が必要。世俗王が橋築、神聖王が西谷との解釈も可能では。

北條 桥築、西谷とともに中國から出土するなど間違なく交流があつたはず。対立関係だったのか。

北條 卑弥呼存命中に吉備が大和の邪馬台國連合に参加してたら、經向遺跡(奈良県櫻井市)などに吉備のものがもつとも入つていて。卑弥呼は吉備の王とともに倭國を名乗つたのでは。これ

は一切ない。邪馬台国までの道筋として「水行すること十日、陸行すること一月なり」とあり、吉備であれば陸行一月もかからず、地理的必然性からしても出雲説をとりたい。

一3人とも投馬國(出雲説)では邪馬台國と対立する狗奴國の所在地はどこか。定説は東海地方、尾張だ。

北條 私は吉備説。卑弥呼は魏に使者を送り、皇帝から「親魏倭王」に任じられた。朝貢の是否を巡る対立関係として邪馬台國連合(畿内・出雲・北九州)・反対意見側の狗奴國連合(瀬戸内と南九州・沖縄)の構図があつたとするのが自然な見方だと思う。

一吉備をまとめたのは世俗王、神聖王2つの権力が必要。世俗王が橋築、神聖王が西谷との解釈も可能では。

北條 桥築、西谷とともに中國から出土するなど間違なく交流があつたはず。対立関係だったのか。

北條 卑弥呼存命中に吉備が大和の邪馬台國連合に参加してたら、經向遺跡(奈良県櫻井市)などに吉備のものがもつとも入つていて。卑弥呼は吉備の王とともに倭國を名乗つたのでは。これ

は一切ない。邪馬台国までの道筋として「水行すること十日、陸行すること一月なり」とあり、吉備であれば陸行一月もかからず、地理的必然性からしても出雲説をとりたい。

一吉備をまとめたのは世俗王、神聖王2つの権力が必要。世俗王が橋築、神聖王が西谷との解釈も可能では。

北條 桥築、西谷とともに中國から出土するなど間違なく交流があつたはず。対立関係だったのか。